

第1回 十勝川減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年6月9日（木） 15:00～16:30

会場：とちがね館 金枝の間

委員：15名

帯広開発建設部長、釧路地方気象台長、北海道十勝総合振興局長、帯広市長(代理)、音更町長、士幌町長、新得町長、清水町長(代理)、芽室町長(代理)、中札内村長、池田町長、幕別町長、豊頃町長、本別町長、浦幌町長

<議事内容>

- ・協議会設置趣旨確認と協議会規約の承認
- ・現状の水害リスク情報や取組状況を共有、減災のための目標等について協議
- ・今後5年間で達成すべき目標及び目標達成に向けた3つの取組の確認
- ・今後の具体的な取組項目、フォローアップ方法について検討を行うことを確認

<主な意見>

- 池田町) ・大正時代に洪水で池田町が湖のようになったことがあるため、雨量データ等を示して、今後の対策検討の基礎としてはどうか。
- ・ダムの効果について、札幌ドーム何杯分の水を貯めたといっても分かりづらいので、わかりやすい表現を検討した方が良い。例として、ダムにより〇〇地域の何平方キロの浸水を食い止めることができたなどの表現。
- ・今後、想定最大規模の降雨を対象とした浸水想定区域が出されるとのことだが、ハザードマップ作成に併せて、上流側の発電ダムとの連携も検討してほしい。
- ・今後の具体的な取組については、人命を最優先として対策を考えてほしい、高齢化が大きな課題となっているので、このような状況を含めて検討してほしい。
- 士幌町) ・山の保水効果について、防災対策の検討に盛り込んでいくべき。
- 本別町) ・雨の降り方が変わったのか、上流の様相が変わったのか。昔は上流に降った雨が時間をかけて下流へ流れ出てきていたが、最近はずぐに出てくることから、山の保水能力が落ちていると感じている。
- ・想定最大規模の洪水、土砂災害に対応した防災計画を立てることが重要であり、高齢者のことも考慮した、避難体制の検討を行っていきたい。

- 音更町) ・平成 23 年の出水時に発電ダムからの放流により、どの程度水位が上がるかのシミュレーションを依頼したところ、発電ダム管理者から技術的に出来ないとの回答があったので解決策を検討してほしい。
- 豊頃町) ・十勝川本川の水位が高くなれば内水氾濫がおき、長引けば農作物への影響も懸念されることから、内水排除の取組を引き続きお願いしたい。山、川、海がバランス良く整備されることが望ましい。
- 浦幌町) ・これまでは津波をメインに防災計画を考えてきたが、想定最大規模の浸水想定区域が出されるのであれば根本的な考え方を変えるべきと考えており、早急に区域を出してほしい。町としても、内水対策を含め防災対策を検討していきたい。
- 幕別町) ・地震とは違い、洪水はある程度予測がつくが、最近では想像以上に水位の上昇が早いと思うので、早めの情報提供をお願いしたい。また浸水想定区域の情報も早く提供してほしい。
- 中札内村) ・札内川ダム完成により洪水という認識が薄くなっているが、ダムが満水になる可能性も想定して、ダムの放流がどのようなときに行われ、いつ被害が起こるのか、情報がほしい。
- 芽室町) ・洪水に対する意識が低いのか、平成 23 年出水の際に避難勧告を出したが、避難率は低かった。人海戦術で住民に意識してもらう必要がある。町が率先して検討し、防災意識を高めていきたい。
- 清水町) ・洪水の認識が低く、職員を含めて油断がある。今後、意識向上を図りたい。
- 新得町) ・十勝ダム、佐幌ダム完成により水害が無いに等しいが、小さい川からの急な出水には注意しなければならない。ダム放流は理解しているが、大雨前に早めに放流するなどの検討を行ってほしい。
- 帯広市) ・地形が異なる自治体が集まるのは有意義である。本協議会は水防災意識社会の再構築に有効であり、期待している。